「世界一の都市 東京」へ

舛添要一 東京都知事インタビュー

環境でも世界一めざそう

国連での東ト協グリーン・エコプロジェクトのプレゼンをたたえる都知事（左は佐々木記者）

東京都の舛添要一知事は、『東京都長期ビジョン』を2014年12月に発表し、「世界一の都市・東京」の実現を目指した戦略を示し、2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、諸課題解決に取り組んでいる。今年の年末にはパリでCOP会議（気候変動枠組条約締約国会議）が開かれるため、温室効果ガス削減対策などの環境問題に注目が集まっており、東京都環境局では、2008年策定の「東京都環境基本計画」を改定する準備を進めている。このような中、舛添知事に物流における環境対策を聞いた。【聞き手 多屋芳郎、佐々木美規慎、9月16日、都庁で】

――新たな「環境基本計画」の狙いについて聞かせてください。

舛添都知事　前回策定の環境基本計画は7年あまり経過しました。その間、エネルギー需給をめぐる問題をはじめ、気候変動への対応や、PM2・5（微小粒子状物質）に代表される大気環境など、環境政策を取り巻く状況が大きく変わっています。

このような国内外の社会情勢の変化に対応するため、新たな環境計画を策定する必要があると考えて、4月に環境審議会に諮問しまして、長期ビジョンにも当然入っています。世界一の環境先進都市をめざそうということで議論をしていただいています。

――今年は12月にパリでCOP会議（気候変動枠組条約締約国会議）が開かれ、国際的に環境問題に注目が集まっています。運輸部門の取り組みについて、いかがお考えですか？

都知事　「世界一の都市・東京」をめざすには、経済の血液といえる物流の機能の向上はきわめて重要です。その一方、地球温暖化に伴う環境問題解決のため、自動車から排出されるCO₂削減は世界共通の課題であり、都内でもCO₂排出量の約2割を運輸部門が占めており、その対策は大変重要です。

――東京都の具体的な取り組みのポイントを教えてください。

都知事　いま、本格的に取り組んでいるのは、大きく3点です。まず、交通渋滞の解消です。今年3月に中央環状品川線が開通しました。新宿から羽田空港まで40分かかったのが19分へ半分以下に短縮し、非常に交通渋滞が少なくなってきて、我が東京の売りになってきました。

2020年オリンピック・パラリンピックまでに関越道と中央高速、東名高速を結ぶ外環道を開通させたいと考えています。

人類史上初の交通渋滞のない街

――世界の都市と比べて東京の交通渋滞はどうなのでしょうか？

都知事　ロンドンもニューヨークもパリも、モスクワもソウルもフィリピンも、どの大都会も交通渋滞に悩んでいます。海外から要人が来て会う機会が多いのですが、東京の道路交通がスムーズであることに、皆さんが感激します。2020年のオリンピック・パラリンピックまでに進めまして、世界の大都会で人類史上初めて交通渋滞のない街を創りたいと努力しているところです。

――人類史上初めての交通渋滞のない街ですか、素晴らしいビジョンです。

都知事　ありがとうございます。それから次世代自動車として、既に都バスで始めましたが水素自動車の普及です。そして、取り組みの3つ目がエコドライブです。

グリーン・エコ「大変素晴らしい」

「東京都も世界初の貨物輸送評価制度を推進しています」

――東京都トラック協会ではエコドライブ活動である「グリーン・エコプロジェクト」事業に取り組んでいます。

都知事　ええ、知っています。東京都トラック協会のグリーン・エコプロジェクトは、協会とトラック運送事業者が連携してCO₂の削減などに成果を上げています。大変素晴らしいことです。グリーン・エコプロジェクトは、東京の空、空気をきれいにしていただいています。

また、エコドライブの推進として、東京都でも運送事業者の方々に取り組んでいただくため、世界初の「貨物輸送評価制度」を推進しています。

この制度は、運送事業者のドライバーへの教育体制や日頃の燃費管理などの取り組みを星（☆）の数で分かりやすく評価しています。東京都としては、評価を受けた事業者の皆さんが、荷主のお客さんから運送サービス利用時に優先的に選択され、受注機会が拡大することで、運送事業全体のCO₂削減を図ることを大きな狙いとしています。

国連でのプレゼン「心強い」

――グリーン・エコプロジェクトは、国内だけでなく国際的にも評価されています。

都知事　昨年11月には国連の「エコドライブカンファレンス」で東京都トラック協会の環境部長がグリーン・エコプロジェクトの取り組みについてプレゼンテーションして、世界的に大変関心が高かったと聞いています。そのプレゼンでは、東京都の貨物輸送評価制度についても紹介していただき、大変心強く思っています。

私自身、東京都トラック協会がグリーン・エコプロジェクトに取り組み、エコドライブを普及していただくのは大変ありがたいです。運送事業者の方々も一生懸命に取り組んでおり敬意を表します。

そして、東京都の評価制度があるわけです。東京都としても支援させていただきたいと思います。

ぜひ、皆さん、CO₂削減に果敢にチャレンジして、世界のトップランナーになっていただきたいと思います。

貨物輸送評価「頑張って☆取得を」

――貨物輸送評価制度には、グリーン・エコプロジェクト参加事業者も積極的に参加し、連動しています。

都知事　そうです。貨物輸送評価制度は、グリーン・エコプロジェクトで蓄積された41万件の燃費データを反映して、ベンチマーク（評価基準）を作成したものです。

このように、グリーン・エコプロジェクトを通じて、運送事業者の皆さんがエコドライブや燃費管理に取り組むことは、大変意義があります。貨物輸送評価制度の開始以来、評価を取得する事業者が増えていて、2012年には115社だったのが今年は、229社と倍増しています。

ぜひ運送事業者の皆さんが貨物輸送評価制度を活用していただき、レストランやホテルに星（☆）がついているように、どうか頑張って取得していただきたいと思います。

全国ト協の普及期待

――グリーン・エコプロジェクトは東京からスタートして現在、千葉、群馬、滋賀、大阪、愛知の各トラック協会でも実施されています。

都知事　全国のトラック協会にも普及していただくことを期待しております。そして、トラック運送事業者は、さらに、グローバルな視点で海外に乗り出していただきたいと思います。自分たちがグリーン・エコプロジェクトで実現したことを伝え、指導していただきたいと思います。

いま以上に、世界に目を向けてもらいたいと思います。世界は悩んでいます。「こうすればいいんですよ」と教えてあげてほしいと思います。東京の空気は世界で一番きれいですし、エコドライブによる運転マナーは素晴らしいです。そういう意味からも引き続き頑張っていただきたいと思います。

トラック輸送は緊急時の〝命綱〟

――トラック業界へのメッセージをお願いします。

都知事　災害が続いています。東日本大震災、先ごろは関東・東北豪雨もありました。災害などの緊急時、トラック輸送が本当に〝命綱〟です。災害の時にお力添えをいただいています。いつ、直下型地震が来るかわかりません。トラック協会さんと災害協定を結ばせていただいておりますが、協会の会合に呼ばれましたら、いつも感謝の言葉を申し述べさせていただいております。

皆さんに対し、都民、国民はありがたいと思っています。今後とも協力、絆を深めていきたいと思います。

――東京オリンピック・パラリンピックへ向け一言お願いします。

都知事　1964年の東京オリンピックは高度成長への目的がありましたが、今度は単なる成長ではなく「成熟社会のゆとり」のオリンピック・パラリンピックだと思います。エコドライブは交通事故防止にもなります。「心のゆとり」です。その意味でも、引き続きエコドライブを推進して行ってほしいと思います。

――ありがとうございました。都知事のますますの活躍を期待しています。

【撮影　十文字義之】

グリーン・エコプロジェクト　都貨物輸送評価制度

都と東ト協　普及に連携

都貨物輸送評価制度の証明書とステッカーを手にアピール

グリーン・エコプロジェクト

環境CSR

東京都トラック協会が2006年に独自の新規事業として地球温暖化防止対策の対応を図るため、独自のCO₂等削減対策を盛り込み立ち上げた。車両ごとに収集した燃費からデータベースを構築し、継続的なエコドライブ活動を推進・支援、CO₂排出量の削減や燃費向上に伴うコスト削減、事故防止等に向けた取り組みを展開している。

最終目標は、経営者・管理者・ドライバーの従業員一人ひとりが環境意識の向上による社会貢献・社会責任を主軸とした〝環境CSR（環境から進める経営改善）〟を目指している。

そのために、レベルアップセミナーを開催して、環境関連資料やドライバーのモチベーションを高める教育資料を提供し、環境問題に能動的に取り組めるよう支援している。

このように継続的に活動を行うことで、①地球温暖化防止対策②コスト削減対策③交通事故削減④社内環境の改善へとつながっていくとしている。

現在637社、車両数1万8923台が参加している。

グリーン・エコプロジェクトの評価は高く、国内のほか海外では、国連エコドライブカンファレンス、COP15（コペンハーゲン）のサイドイベント、アジアEST地域フォーラム（バンコク）、ドイツ、中国などの国際会議に出席している。

さらに、10月20日に愛知県で開催される国連エコドライブ名古屋カンファレンスでもプレゼンテーションを行う予定。

また、これまでに環境大臣賞、東京都環境賞、関東運輸局長表彰、物流環境大賞、グリーン購入大賞、経済産業大臣賞など受賞。

東京都貨物輸送評価制度

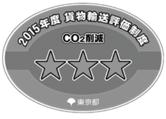
星の数で評価

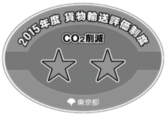
東京都は、2012年度より自動車からのCO₂削減を推進するため、環境負荷低減の取り組みを進めている貨物運送事業者を実走行燃費で評価する世界初の「貨物輸送評価制度」を実施している。

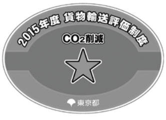
この評価制度は、都内に物資を輸配送する貨物運送事業者の全車両における1年分の実走行燃費記録をもとに、エコドライブやドライバーへの継続的な教育訓練などCO₂削減に関する努力を東京都が星の数で分かりやすく評価する。

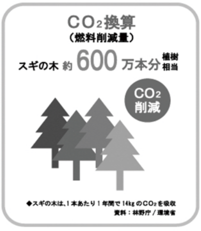
都の調査によると、評価取得事業者は、グリーン経営など第三者評価を受けていない事業者と比較して約20％CO₂排出量が低い。

なお、2015年度評価取得事業者229社のうち、224社がグリーン・エコプロジェクト参加事業者。

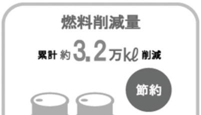


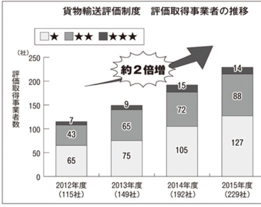





CO2換算
（燃料削減量）
スギの木 約600万本分 植樹相当
CO2削減
◆スギの木は、1本あたり1年間で14kgのCO₂を吸収
資料：林野庁／環境省

「グリーン・エコプロジェクト」9年間の実績


燃料削減量
累計 約3.2万kℓ削減
節約
軽油
ドラム缶（200ℓ）
約16万本分に相当



東京都は、自動車からのCO₂排出削減対策として、環境負荷低減の取組を進めている貨物運送事業者を、実走行燃費で評価する〝世界初〟の「貨物輸送評価制度」を構築